

未婚者と将来不安

Uncertain Future: The Anxiety of Singles in Japan

久木元 真吾 (公益財団法人 家計経済研究所)

Shingo Kukimoto (The Institute for Research on Household Economics)

kukimoto@kakeiken.or.jp

公益財団法人家計経済研究所が2015年3月に実施した「未婚者の生活と意識に関する調査」(全国の30~44歳の未婚男女2,247人を対象としたインターネット調査)では、全体の最後に、「ご自身の今の生活や将来について、お考えになっていることをご自由にご記入ください」という、自由記述の質問を設けている。この質問になされた回答を、以下では「自由回答」と一括して表現することにし、ここではこの自由回答のうち、「特になし」など具体的な記述がないものを除いた、1,385人(男性614人、女性771人)の回答者が記した自由回答における記述(記された言葉)を素材にして、30~40歳代の未婚者たちの意識の諸相について考察を行う。

まず、自由回答のテキストデータから、単語ごとの出現ケース数および、具体的な記述があったケース全体に占める割合を、男女別および年齢層別に集計した(表1、2)。この結果をみると、男女ともどの年齢層でも「不安」が自由回答の中で最も多く用いられている言葉であることがわかる。「不安」は男女・年齢層問わず、30~40歳代の未婚者たちが今の生活や将来について語る上で、最も主要なキーワードとなっている。

表1 自由記述で用いられている単語(男性)

(30~34歳男性)			(35~39歳男性)			(40~44歳男性)		
語	ケース数	割合	語	ケース数	割合	語	ケース数	割合
不安	35	17.0%	不安	30	14.7%	不安	38	18.6%
生活	22	10.7%	将来	24	11.8%	将来	24	11.8%
結婚	22	10.7%	生活	16	7.8%	仕事	18	8.8%
今	19	9.2%	今	15	7.4%	今	17	8.3%
将来	15	7.3%	仕事	15	7.4%	生活	14	6.9%
仕事	15	7.3%	収入	12	5.9%	自分	9	4.4%
収入	10	4.9%	結婚	10	4.9%	結婚	8	3.9%
自分	10	4.9%	自分	9	4.4%	収入	8	3.9%
貯金	10	4.9%	親	8	3.9%	貯蓄	7	3.4%
老後	9	4.4%	貯蓄	7	3.4%			
親	8	3.9%						
今後	8	3.9%						

注: 1) 「ケース数」は、自由記述の内容にその語が含まれていたケースの数

2) 30~34歳・35~39歳・40~44歳の総ケース数は、それぞれ206、204、204(具体的な記述があったもののみ)

3) 「割合」は、具体的な記述があったケース数(2)に示したもの)に対する、その語が含まれていたケースの割合。なお「割合」が3%以上のもののみを掲載している

表 2 自由記述で用いられている単語（女性）

(30～34歳女性)			(35～39歳女性)			(40～44歳女性)		
語	ケース数	割合	語	ケース数	割合	語	ケース数	割合
不安	59	22.0%	不安	61	24.9%	不安	63	24.4%
結婚	51	19.0%	結婚	34	13.9%	生活	35	13.6%
仕事	27	10.1%	将来	28	11.4%	将来	33	12.8%
将来	24	9.0%	生活	28	11.4%	老後	25	9.7%
今	21	7.8%	今	22	9.0%	仕事	23	8.9%
生活	18	6.7%	仕事	17	6.9%	今	23	8.9%
お金	16	6.0%	老後	17	6.9%	自分	17	6.6%
子供	16	6.0%	収入	15	6.1%	結婚	15	5.8%
貯金	13	4.9%	自分	14	5.7%	収入	14	5.4%
自分	12	4.5%	子供	13	5.3%	親	13	5.0%
老後	9	3.4%	親	12	4.9%	心配	13	5.0%
収入	9	3.4%	年金	10	4.1%	お金	12	4.7%
心配	9	3.4%	お金	9	3.7%	健康	11	4.3%
介護	9	3.4%	心配	9	3.7%	年金	8	3.1%
好き	9	3.4%	健康	9	3.7%			
親	8	3.0%						
貯蓄	8	3.0%						

注：1) 「ケース数」「割合」の定義は前表と同じ

2) 30～34歳・35～39歳・40～44歳の総ケース数は、それぞれ268、245、258（具体的な記述があったもののみ）。「割合」が3%以上のもののみを掲載している

自由回答の具体的な記述を検討すると、不安の背景として最も大きいのは仕事に関するものである。非正規雇用で働いていることから、今の仕事が続けられる保障のなさ・給料の低さなどを挙げて将来の不安を語る例は多々みられる。ただし、正規雇用で働いていれば不安がないかという点とそうとは限らず、勤め先の会社自体が不安定になりつつあることや、その中で補助の打ち切りや給料の低さなどから、将来の不安を語る例もみられる。現在不安がないとしても、そのことが将来にわたって不安のない状況を保障するわけではないという形で、広く不安が抱かれていることがうかがえる。

また、今回の自由回答で注目されたのは、病気による生活の影響への言及である。健康であっても将来への不安が語られる中で、病気ゆえの生活上の困難がある場合、一層不安は強いものとなる。病気が理由で仕事につけなかったり、就ける仕事に制約があったりすることを語るケースや、就職活動が十分にできなかったり、転職に向けての実績を積むことができなかったりすることを語るケースがみられたが、特に30歳代から40歳代前半という年齢でこうした病気と仕事の問題が重なることは、キャリアの展望を抱きにくくし、不安を強める結果となっていることが、自由回答からうかがえる。

こうした点から浮かび上がるのは、非正規雇用でのキャリアしか積めずに40歳代を迎えているケースや、本人の病気や親の介護などのやむをえない事情でキャリア形成が中断したケースなどに関して、新たにキャリアを形成していける道筋を社会の中でつくっていくことの必要性である。キャリア形成を始める年齢のタイミングを限定しない「年齢フリー」なキャリア形成や、病気や介護など諸事情を抱えつつ並行して進められるキャリア形成のあり方を構想することが、未婚者たちの今後をめぐる重要な社会的課題だといえるだろう。